

S - 3 - 3

**漢方薬の薬物相互作用に関する医薬品情報
～薬理作用・代謝経路からのアプローチ～**

北里大学病院 薬剤部

○赤瀬朋秀

同一患者に2剤以上の薬剤を併用したとき、一方の薬剤の単独投与ではみられない薬理作用の増強や、逆に減弱が起こり得ることはよく知られている。このように“2剤以上の薬剤の併用時にみられる薬物異常反応”を薬物相互作用と呼んでいる。薬物相互作用は、薬物動態的相互作用と薬力学的相互作用に大別されており、最近ではメカニズムや併用に注意を要する薬剤に関する情報も整備されてきている。漢方薬と西洋薬の併用も例外でなく、添付文書上には甘草と利尿薬、麻黄とエフェドリンなどの相互作用が記載されている。しかし、これらの情報は、同一成分の重複や類似した薬理作用による単なる相加相乗作用に関するものであり、薬物相互作用に関する情報としては不十分と言わざるを得ない。従来、薬剤師は漢方薬を患者に投薬する際に、添付文書やインタビューフォームの記載事項に忠実に服薬指導を行ってきた。特に甘草が含まれている方剤に関しては、決まり文句の如く“偽アルドステロン症”発症の注意を指導してきたが、その成因や発症頻度を考慮すると、はたして臨床意味のある服薬指導であるか疑問である。元来、漢方薬は化学的性質の異なる多くの成分を含む薬剤であり、西洋薬との併用に関しては十分な注意を払う必要があると思われる。これら相互作用に関する服薬指導は、漢方薬の構成生薬および成分、代謝経路に関する情報を整理しておかないと困難である。また、次々と開発される新薬に関してはその薬理作用を理解した上で情報を整理すべきであることは言うまでもない。演者らのグループは、これまでにアカルボースと大建中湯、ニフェジピンと大柴胡湯などの相互作用に関して報告を重ねてきた。今回は、これらの薬物相互作用に関する情報の整備と考え方および臨床応用について、研究結果および症例を交えて報告する。